5 マレーシア・ゴンバックの熱帯雨林で採集したクロヤブカ属 (*Armigeres*) の蚊

○當間孝子¹⁾, 宮城一郎¹⁾, 岡澤孝雄²⁾, 比嘉由紀子¹⁾, 茂木幹義³⁾, Mohd Sofian Azirun⁴⁾, Rosli Hashim⁴⁾ (1)琉球大学, 2)金沢大学, 3)佐賀大学, 4)マラヤ大学). *Armigeres* mosquitoes collected in the rainforest, Gombak, Malaysia. Toma, T., Miyagi, I., Okazawa, T., Higa, Y., Mogi, M., Azirun, M. S. and Hashim, R.

マレーシアのマラヤ大学理学部生物研究センターはゴンバックにあり、自然林が比較的良好に保存されており、動物や植物相が豊富な所で、1960年代には、蚊の調査がよく行われた所である。2003年10月と2004年3月に、マラヤ大学演習林内や、周辺部で、蚊、特に、ギンモンカ属とクロヤブカ属の調査を行った。ここではクロヤブカ属(*Armigeres*)の蚊の調査結果を報告した。

蚊の採集は、竹切り株、竹穴、ココナツ、バナナの幹、生姜の花、人工容器の水溜り、幼虫をスポイドと柄杓を用いて行った。幼虫は室内で飼育し、成虫にした。種の同定は成虫雄の生殖器の形態で行った。その結果、*Arimigeres* 亜属の *Ar. confusus*, *conjungens*, *jugraensis*, *kesseli*, *malayi*, *seticoxitis*, *subalbatus* と *Leicesteria* 亜属の *Ar. digitatus*, *dolicocephalus*, *flavus*, *omissus* が採集された。*Ar. seticoxitis* は中国からの記録のみであったが、今回、マレーシアでは初めてバナナの幹の汚水溜りから幼虫が採集された。*Ar. conjungens* は生姜の花の水溜りから採集された。本種はタイ北部の生姜の水溜りに生息する *Ar. theobaldi* に酷似するが、タイプ標本と比較した結果、雄の生殖器の形態が明らかに異なっていた。*Armigeres* 亜属の *confusus*, *jugraensis*, *kesseli*, *subalbatus* はココナツ、バナナ幹、人工容器の水溜り、*malayi* はココナツとカカオの実に溜った汚水から採れた。*Leicesteria* 亜属の蚊は、竹切り株や穴のある竹の水溜りに生息していた。*Ar. flavus* は竹切り株、ココナツや人工容器など有機質に富んだ水溜りから採集された。各種の生殖器の形態的な特徴についても紹介した。

7 タイ国 Dengue 熱流行地でのウイルス保有蚊調査

○江下優樹¹⁾, 安西三郎¹⁾, 多森直樹¹⁾, 東原絢子¹⁾, Hamady Dieng¹⁾, Srisawat Raweeewan²⁾, Narumon Komalamisra²⁾, Somjai Leemingsawat²⁾, Yupha Rongsriyam²⁾, 牛島廣治³⁾ (1) 大分大・医・感染分子病態制御, 2) Dept. Med. Entomol., Facul. Trop. Med., Mahidol Univ., 3) 東大・院・医系・国際保健・発達医科学). Surveillance of dengue vector infected with the virus in the epidemic areas, Thailand. Eshita, Y., Anzai, S., Tamori, N., Higashihara, J., Dieng, H., Raweeewan, S., Komalamisra, N., Leemingsawat, S., Rongsriyam, Y. and Ushijima, H.

Dengue 熱流行地域における蚊の Dengue ウイルス感染状況を把握するために、2003年7月タイ国で媒介蚊調査を行った。チョンブリ県の本症患者宅を訪問して、一軒あたり30分間の成虫採集を行った。採集蚊は28°C2週間飼育した後、RT-PCR法によって蚊からのウイルスゲノム検出を試みた。その結果、サンスク地区で採集したネッタイシマカ *Aedes aegypti* 雌および雄成虫からウイルスゲノムの増幅が認められた。患者が発見された人家内には、産卵箇所と幼虫発生源(水瓶やトイレの水槽タンク)および吸血源(ヒト)があるので、感染蚊成虫の潜伏箇所として好適環境が備わっていると思われた。また、ウイルスを保有した感染蚊が患者発生の人家内に潜伏している可能性が少なからずあることが推察され、患者発生前後の指標として蚊の感染情報は有用と考えられる。さらに、ウイルスゲノムが雄蚊から検出されたことから、従来の感染源に加えて、自然界における蚊から蚊へのウイルス経卵巣伝播の可能性が示唆された。雄成虫のウイルス維持への関与を今後さらに検討する必要がある。

6 マレーシア・ゴンバックの熱帯雨林で採集したギンモンカ属 (*Topomyia*) の蚊

○宮城一郎¹⁾, 當間孝子¹⁾, 岡澤孝雄²⁾, 比嘉由紀子¹⁾, 茂木幹義³⁾, Mohd Sofian Azirun⁴⁾, Rosli Hashim⁴⁾ (1)琉球大学, 2)金沢大学, 3)佐賀大学, 4)マラヤ大学). *Topomyia* mosquitoes collected in the rainforest, Gombak, Malaysia. Miyagi, I., Toma, T., Okazawa, T., Higa, Y., Mogi, M., Azirun, M. S. and Hashim, R.

マレーシアのマラヤ大学理学部野生生物研究センターはゴンバック(主都クアラルンプールから30kmの地点)にある。今でも自然林が比較的良好に保存されており、動物や植物相が豊富で、1900年代初頭、英国の著名な研究者により蚊の調査がよく行われた所である。2003年10月と2004年3月の2回、それぞれ約1ヶ月間マラヤ大学演習林内や、その周辺部で、蚊、特に、ギンモンカ属(*Topomyia*)の蚊の調査を行った。

蚊の採集は、竹切り株、竹穴、クワズイモ・バナナなど種々の植物の葉腋、幹、生姜の花弁などの水溜り、幼虫をスポイドと柄杓を用いて行った。採集した幼虫は水溜りごとに室内で個別飼育し、幼虫・蛹の脱殻・成虫の一連の標本を保存した。種の同定は主として成虫雄の生殖器の形態で行った。その結果、*Topomyia* 亜属に属する5種、*Tb. gracilis* Leicester, *Tb. pilosa* Brug, *Tb. tenuis* Edwards, *Tb. tipuliformis* Leicester, *Tb. vijayae* Ramalingam と *Suaymyia* 亜属に属する1新種を含む5種、*Tb. argenteoventralis* Leicester, *Tb. decorabilis* Leicester, *Tb. houghtoni* Feng, *Tb. spathulirostris* Edwards, *Topomyia* sp. new が採集された。*Topomyia* 亜属の幼虫はいろいろな植物の葉腋の水溜まり、*Suaymyia* 亜属は主として小孔があいた生竹の筒内の水溜りに限って発生する。しかし、今回採集された *Suaymyia* 属の *Tb. houghtoni* と *Tb. argenteoventralis* はクワズイモの葉腋でのみ採集され、捕食性で、同棲する *Topomyia* 亜属やカギカ属(*Malaya*)の幼虫を捕食している。各種の形態的特徴や生息場所の写真を紹介した。

8 大分県におけるメマトイ類の2003~2004年の採集成績および *Thelazia* 幼虫自然感染

○青木千春¹⁾, 大塚靖¹⁾, 高岡宏行¹⁾, 林利彦²⁾ (1)大分大学, 医学部, 感染分子病態制御講座, 2)国立感染症研究所, 昆虫医科学部). Natural infections of three *Amiota* species with larvae of *Thelazia* in Oita, 2003~2004. Aoki, C., Otsuka, Y., Takaoka, H. and Hayashi, T.

先の学会で、2003年3月以前に、人図法により採集したメマトイ類の採集成績と *Thelazia* 幼虫の自然感染について発表したが、その後も調査を継続し、新しい知見を得たので発表する。2003年4月から2004年10月に大分県下6ヶ所においてメマトイ類を採集した。そのうちの2ヶ所では、少なくとも月に1回の採集を行い、季節消長を調査した。採集数はカップメマトイ 851個体(35.8%), マダラメマトイ 597個体(25.1%), オオマダラメマトイ 334個体(14.0%), ツバメメマトイ 311個体(13.1%), クロメマトイ 286個体(12.0%), 合計2379個体であった。2003年以前にはメマトイは4月から10月に採集されたが、2004年には3月下旬から採集された。採集したメマトイのうち2146個体を解剖し、カップメマトイ、マダラメマトイ、オオマダラメマトイから *Thelazia* 類幼虫を検出した。感染率はそれぞれ、1.6%, 2.6%, 1.3%であった。感染幼虫は、2003年までは6月から9月に検出されたが、2004年には4月下旬と6月から10月に検出された。また、人体感染症例より得た東洋眼虫 *Thelazia callipaeda* 成虫と、カップメマトイ、マダラメマトイ、オオマダラメマトイから見出した第3期幼虫(一部第2期幼虫)のDNAを抽出し、ITS1領域を比較した結果、両者の配列は一致した。